

## 論文・著書・翻訳等研究業績一覧

〔名称，発表年月，発行所・発表誌・学会等〕

### 論文

- (1) 「帰納問題に関する一考察」 1963.3 『埼玉大学紀要』人文科学篇・第11巻
- (2) 「倫理と論理の間」 1966.2 (社)倫理研究所『倫理』第158号
- (3) 「パースにおける論理的なもの——パース研究(1)——」 1969.4 『城西経済学会誌』第5巻第1号
- (4) 「パースの確率概念」(パース研究(2)) 1970.10 日本哲学会編集『哲学』第20号
- (5) 「チャンスと法則——パース研究(3)——」 1971.7 『城西経済学会誌』第7巻第1号
- (6) 「意味と認識——パース研究(4)——」 1973.12 『城西人文研究』創刊号
- (7) 「科学の合理性について」(パース研究(5)) 1974.11 日本科学哲学会編集『科学哲学』第7号
- (8) 「発見の哲学——パース研究(6)——」 1975.11 『城西大学開学十周年記念論文集』
- (9) 「論理の自律性について——パース研究(7)——」 1977.3 『城西人文研究』第4号
- (10) 「パズルは解けたか——ラッセルの『指示について』——」 1978.4 日本イギリス哲学会編集『イギリス哲学研究』創刊号
- (11) 「《人間＝記号》論について」 1984.2 『城西人文研究』第11号
- (12) 「“鏡”の論理から“魂”の論理へ——人間記号論序説——」 1986.2 『城西人文研究』第13号
- (13) 「推論の妥当性から《魂》の論理性へ」 1987.7 『城西人文研究』第15巻第1号

- (14) 「ホプキンズの Parmenides 論——“インストレス”から“インスケイプ”へ——」1994.6 工藤喜作他編『哲学思索と現実の世界』創文社

注 (1)はポパーとパースを扱い、(2)～(9)及び(11)～(13)はパースに関する研究論文。  
 (10)は1977年7月1日、日本イギリス哲学会にて行われた研究報告に基づくもの。  
 (14)はギリシア哲学者 Parmenides の哲学詩『断片』に関して考察した現代英国詩人 G・M・ホプキンズの思想を考究。

## 著 書

- (1)『哲学講義』(小松攝郎編) 1973.4 法律文化社  
 (2)『現代社会と道德教育』(金子光男編) 1974.6 酒井書店  
 (3)『現代教養百科事典・第5巻思想編』1967.11 暁教育出版社  
 (4)『古典・名著の読み方』(廣川洋一編) 1991.11 日本実業出版社

注 以上はすべて共著または執筆。  
 (1)では「プラグマティズム」及び「分析哲学」を担当。  
 (2)は全9章中2章を担当、即ち第3章「道德思想の本質と展開」及び第9章「道德教育の展望」。  
 (3)では「科学哲学」を分担して、ホワイトヘッド、サンタヤナ、ポパー、クワインなど代表的哲学者の思想・著書など12項目を執筆。  
 (4)では「哲学」部門のウィトゲンシュタイン『論理哲学論考』及び「科学史」の全部門、即ち古代ギリシアの医祖ヒポクラテス『集典』から20世紀のアインシュタイン『相対性理論』に至る9つの名著について執筆。

## 翻 訳

- (1)『現代倫理学大系』第2巻(矢島羊吉他監修) 1958.3 洋洋社  
 (2)『現代英米の倫理学』第4巻(矢島羊吉他監修) 1959.11 福村出版株式会社  
 (3)『科学の論理学』[P.アレグザンダー著] 1969.6 明玄書房  
 (4)『分析哲学入門・第1巻=意味論』[J.ホスパーズ著] 1971.10 法政大学出版局  
 (5)『分析哲学入門・第4巻=形而上学』[J.ホスパーズ著] 1972.10 法政大学出版局  
 (6)『論理学入門』[P.アレグザンダー著] 1976.5 三和書房

- (7) 『論理学入門』（訂正版）〔P. アレグザンダー著〕 1977. 5 三和書房
- (8) 「哲学者バートランド・ラッセル」〔A. J. エイヤー卿講演〕 1980. 9 学術誌『思想』第 675 号 岩波書店
- (9) 『合理的思考のすすめ』〔P. T. ギーチ著〕 1984. 5 法政大学出版局

- 注 (1)の原書名は *Readings in Ethical Theory, Selected & Edited by W. Sellars & J. Hospers*, 1952, Appleton-Century-Crofts, Inc. この中, A. J. エイヤー卿「倫理学批判」及び S. D. ロス卿「エイヤー批判」の二論文を担当翻訳。
- (2)は上記原書を全 5 巻として完成出版。前記 2 論文を収録。
- (3)の著者 Peter Alexander は英国ブリストル大学教授。原書名は *A Preface to the Logic of Science*。
- (4)及び(5)を含む『分析哲学入門』全 5 巻（斎藤哲郎監修）は 1972 年（昭 47）日本翻訳家協会より第 9 回「日本翻訳文化賞」を受賞。共訳。著者 John Hospers は米国南カリフォルニア大学教授。原書名は *An Introduction to Philosophical Analysis*。
- (6)の原書名は *An Introduction to Logic* 共訳。著者に諒解を得て一部要約し、小生が「解説」を書く。
- (7)は前訳書に若干の不備な点があるため、小生が全体にわたり訂正して完璧を期する。
- (8)は Sir A. J. Ayer が 1972 年英国学士院で行なった記念講演 “*Bertrand Russell As A Philosopher*” の全訳。解説を付する。エイヤーはラッセルとともに二十世紀を代表する哲学者の一人。
- (9)は原書名 *Reason and Argument*, 1976 年英 (Basil Blackwell) 米 (Univ. of California Pr.) 同時刊行書。著者 P. T. Geach は現代英国を代表する論理哲学者。夫人の哲学者 G. E. M. アンスコムとともにウィトゲンシュタインの弟子。ケンブリジ在住。

## 編 集

- (1) 『岩本泰波先生記念文集』 2001. 2 広大会出版<sup>こうだいえ</sup>

- 注 埼玉大学名誉教授（宗教哲学担当）故岩本泰波先生を記念。その業績を讃えて”仏教とキリスト教”（論文集），“救いなき人間の救い”（文章・講話集），“岩本先生と私たち”（追悼文・思い出・論文等）の全 3 巻函入にまとめ、編集委員会代表として刊行。

## 〔補〕

- 1983 年 ヘゲラー研究所 (The Hegeler Institute: Publisher of *The Monist*, an International Quarterly Journal of General Philosophical Inquiry and

The Monist Library of Philosophy, La Salle, Illinois) から〈*The Relevance of Charles Peirce*, Ed. by Eugene Freeman, pp.412〉が刊行された。注目すべきこの『チャールズ・パースの今日的意味』はマックス・フィッシュやジョン・スミスなどの代表的論説をはじめ、パースとの類似点について語るポパーの言説やヒンティッカの論説などを収載するとともに、約 700 事項にわたる詳細な「チャールズ・パース=ビブリオグラフィー」を巻末に付することによって、世界的規模でのパース研究状況を展望している。この No. 363~No.369 (p.391) には小生の《パース研究》論文 7 本のタイトルなどが掲載紹介。因みに「モニスト」誌 *The Monist* は 1888 年創刊。パースがしばしば寄稿した米国を代表する本格的な哲学学術誌である。